様式1 平成29年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自尊感情を高め、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　加々美　裕司

本年度の重点目標	
	1　自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する
	2　CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる力を育てる
	3　自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる

達成度	
A	ほぼ達成できた。（8割以上）
B	概ね達成できた。（6割以上）
C	不十分である。（4割以上）
D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（2月15日現在）			実施日　（平成30年3月16日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する	学習意欲を高める教材や自己の在り方生き方についての考察を深める教材の工夫	定通研レポート 振り返りシート 授業アンケート	・教職員は各々が教材への工夫ができていると9割以上が評価しているが、生徒の評価は8割に届かなかった。在り方生き方を考えることについては約8割の生徒が自分にとって役に立つと考えており、道徳性の萌芽が見られた。	B	・教科等チームでの研修を実施、指導内容や方法、教材の共有化を図る。また、全体計画を実効化、体系的・系統的道徳教育を推進していく。	3	・生徒の多様な進路に適応できる教育課程の研究がなされ、それが生徒の学習意欲の向上に繋がる努力をしている。
		アクティブ・ラーニング法による授業実践の観察 （研究授業を専門教科と他教科各1）	指導案、授業観察記録表 授業アンケート	・授業観察を自己の資質向上に役立てているとした教職員が約7割と、アクティブ・ラーニング研修会等での成果が授業実践の活用には繋がらなかった。		・参観記録の様式を工夫改善し、授業観察を生徒の変容という視点から授業実践を振り返る自己研鑽の場として位置づける。併せて、発問力・作問力の向上を意図した指導案を研究、開発していく。		・生徒と職員間の立場の違いから多少のズレがあるのはしかたがないと思われるが、各生徒の実情を考慮した、きめ細かい指導を引き続き実施していただきたい。
		三部制に対応した教育課程の編成	教育課程の編成	・来年度から実施される通級による指導への対応として、学校設定教科の新設など具体策を持って教育課程を編成することができた。		・多様な生徒の進路実現に対応できる教育課程という視点からの検討も行う。また、シラバス（授業計画）を作成し、確かな学力の向上も図っていく必要がある。		・学ぶ事は難しいが、生徒達が何をしたいのかを見つける事が大事だと思う。教職員の指導に期待したい。
		主体的な学びを定着させるための、個別課外の実施や学習室の設置等、学習環境の整備	計画的実施状況	・平成27年度から学習室が設置され、個別に学習する生徒は少数ではあるが存在している。しかし、学校として体制を整備し、個別課外を推進するまでは至らなかった。		・三部制のため放課後となれる時間的余裕がないが、入学後に学力が向上している生徒や進路実現のための個別指導が実施できる機会を見出していく。		
2	CHUOハーモニックプランに基づき、生徒の社会において自立できる力を育てる	分掌や年次によるハーモニックプランの実践	課題別評価表、自己観察書などでの計画実施状況	・総務企画係を主体とした企画運営を行うことで、分掌や年次の連携した実践がなされた。また、自尊感情の向上や社会性を育成することの重要性が浸透し、体験活動や言語活動を効果的に配置した教育活動を展開することができた。	A	・次年度は分掌・年次を俯瞰した全体計画を作成した上で、校内連携の強化を図っていく。	4	・生徒が将来社会人として自立できるように総合的学習の時間や学校行事に主体的に参加できる指導を強化し、社会への適応能力をそだてている。
		入学から卒業までの系統的なキャリア教育の充実	LHR・総合・行事などの計画実施状況	・入学から卒業までの系統的な繋がりへのプロセスとして、総合的な学習や学校行事を横断的に繋げることができた。		・総合的な学習や学校行事を授業とも横断的に繋げ、生徒にとって深い学びとなるような計画の更なる改善に努めていく。併せて、保護者及び外部諸機関との連携を強化していく。		・生活体験、学園祭企画運営などを通じ、小さな成功体験を積み重ねる等の工夫で自立心や自信を付けさせるよう取り組んで欲しい。
		生徒の状況に即した総合的な学習の時間の計画的運営	計画的実施状況	・分掌を核とした校内連携の強化により、目的に即した計画的運営を行うことができた。 ・SST研修会を実施したが、全教職員がSST担当者になるという所期の目的の達成には至らなかった。		・教職員一人一人がカリキュラム・マネジメントという意識を持ち、生徒が成長を自覚できるような工夫をしていく。 ・専門性の向上を意図した研修の計画的実施を図っていく。		・社会制も学校内でできなければ外に出ても何も得られない。生徒・教職員全体で学校内で育む事が大事だと思う。
		育成意図を明確にした活動による豊かな心の育成と社会性の育成	計画実施状況 アンケート調査	・生活体験文について、教職員及び生徒の約2割をその効果を把握していない。学園祭についても、主体的・協働的な活動という面からは改善の余地を残した。		・全教職員で育成意図を共有化し、内容や方法を工夫改善、実効性を高める必要がある。また、事前・事後指導の充実についても検討していく。		
3	生徒が自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる	挨拶をきっかけとした教師と生徒の信頼関係づくり	登校指導や号令時や日常の様子、アンケート調査	・昨年度から、信頼関係づくりという意図で取り組んでいる挨拶運動が、職員や生徒に定着してきている。学校の雰囲気も明るくなってきた。	A	・号令時や廊下でのすれ違い時の挨拶など更に運動を活性化、挨拶や声かけができる学校文化づくりを推進する。	4	・学校生活全体における挨拶運動を定着させ、生徒の社会性を育て、教師との信頼関係を重視している。
		教師の対応力（生徒・保護者への対応、危機管理などの力）の向上	生徒指導・支援会議などの指導状況報告、アンケート調査	・教師の対応力の向上では、教職員アンケートで9割以上の評価を得た。生徒及び保護者の視点に立った対応並びに教職員間の情報交換の必要性を再認識する結果である。		・アンケートから、担任との信頼関係に不安を持っている生徒、保護者が各々2割いることが把握できた。今後は、三者懇談等での情報提供はもとより日常的な意思疎通ツールの充実にも力を入れる。またメールへのブログ発信なども検討していく。		・生徒、保護者、教職員が常に情報交換や互いに連携を図りながら、粘り強く、実践能力の向上を身に付けさせるよう指導教育に取り組んで欲しい。
		支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制づくり	生徒指導・支援会議、進路決定状況	・支援から外部支援に繋げるケース会議を実施した事例が増え、体制が構築されつつある。教職員アンケートでも非常に高い評価を得た。		・支援から自立、支援から外部支援と繋げる過程は容易ではないことを実感した。「報告・連絡・相談」体制の強化並びに機動的組織運営が今後の課題である。		・定時制は仕事（アルバイト）をしてから、学校へ出てくる生徒も多いと思うが、健康管理等に配慮するような指導もお願いしたい。
		生徒の安全確保体制の整備	危機管理マニュアル 防災計画書の内容	・危機管理マニュアルの作成や避難訓練実施、また心身の安全に関する体制も整備もされていることから、職員や生徒アンケートの評価は非常に高かった。		・自助・共助という視点から防災訓練を工夫し、生徒の主体的かつ適切な行動力の育成を目指していく。 ・備蓄品の点検整備への活用など防災消防計画の実効化を図り、危機管理体制の強化を推進する。		

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。